

幸若かわら版

幸若舞の里づくり会
事務局 橋本守行
電話090-7746-8689

第 48号
令和6年 5月 1日

幸若歴史愛好会新シリーズ開始



角鹿講師第1回研究会

令和六年四月より、気比神社の角鹿宮司を講師に講師
にお願いしまして、新しい研究会がスタートしました。
当面のテーマとしては、「松平春嶽と橋本左内」です。
第一回愛好会は、四月二十七日午前10時から、会員一
四名の参加を得て開催されました。新シリーズのプロ
ログとして、主として松平春嶽のひととなりを紹介さ
れました。その要旨は次の通り。
①春嶽は御三家より家格が高い御三卿の一つ田安德川家
より越前松平家の養嗣子となり、一歳で一六代福井藩
主に就任した。
②藩政改革に手腕を発揮し、下級藩士であった由利公
正などを登用した。

③日米通商条約の無勅許調
印に反対、慶喜將軍擁立の
中心勢力となった。
④井伊直弼が大老となり一
時謹慎処分となったが、と
かれた後は公武合体路線を
進めた。
⑤戊辰戦争にあつては、政
府軍にあつたが、戦争の早
期終結、旧幕府軍への寛大
措置の立場であつた。
⑥明治3年以降、政治の第
一線から身を引き、著述に
専念した。

第四開催日は原則として毎月
若研究室で開催します、幸
るってご参加ください。

令和6年度総会開催ご案内

令和6年度の総会を下記要領により開催します。万障お繰り合わせのうえ
ご出席をお願いいたします。

日時 令和5年5月12日(日) 午前10時～
会場 越前町生涯学習センター
議題 令和5年度事業報告・決算
令和6年度事業計画・予算
役員改選その他



- ・当日この1月に行われた福岡県みやま市の「幸若舞保存会」との
オンライン座談会のDVD記録を上映します。
- ・当日令和6年度の会費2千円の納入をお願いします。

八坂神社牛頭天王座像を誇りに

青木講師最終講義力説 幸若歴史愛好会開催、



また、同じ八坂神社でも越前町神宮寺は真言宗の神如來を本尊とし、京都の阿彌陀如來を本尊とする。系で薬師如來や十で観音を本尊とする。地とする音違がある。

さる三月二二日、会員一二名の参加を得て、町図書館で、幸若歴史愛好会が開催されました。今回は、青木豊昭講師の本会の最終講義で、また秘仏として伝えられてきた木造牛頭天王座像（平安時代の作とされる）が重要文化財として国指定が報じられたこともあり、八坂神社とその祭神に関する話題となった。

八坂神社はもともとは祇園天王宮と呼ばれ、古墳時代の応神天皇の造営とされ、祭神は祇園牛頭大日如來という。今回指定された神像は男神・女神の夫婦神であるが、次のような特徴がある。① 檜材の一木造 ② 男神は牛頭を戴き三面一二臂、女神は一面 ③ 男神は武装で忿怒形相、女神は穏やかな形相 ④ 男神の彫眼は素地、女神の彫眼は黒で輪郭、口唇朱などの特徴がある。

当面の主な予定

- 令和6年度総会 5月12日（金）10時
生涯学習センター
三世代健康ウォーク 5月26日（土）
9時～
幸若歴史愛好会 5月28日（火）10時
町図書館幸若研究室



木造 阿彌陀・釈迦如來・菩薩形座像及び光背

福井新聞3月16日記事

八坂神社の牛頭天王座像は、秘仏として伝えられてきた木造牛頭天王座像（県教委提供）

八坂神社の牛頭天王座像は、秘仏として伝えられてきた木造牛頭天王座像（県教委提供）

八坂神社の牛頭天王座像は、秘仏として伝えられてきた木造牛頭天王座像（県教委提供）

西福寺文書(敦賀) 県内2件重文指定へ



文化審議会が答申

国の文化審議会は15日、美術工芸品6件を国主に、36名重要文化財指定する。盛山正安部料相坐像と、前田天王の八坂神社所有の彫刻「木造牛頭天王座像」「木造女神坐像」と、敦賀市原の西福寺所有の古文書群「西福寺文書（56巻）」の2件、県内の重文指定は2020年以來、彫刻は36件目、書跡・典籍・古文書は6件目、官製印章を除き正式に指定される。（福本博之）



秘仏として伝わってきた木造牛頭天王座像（県教委提供）



頭部に十一面観音が表現されている木造女神坐像（県教委提供）

八坂神社(越前町)木造牛頭天王座像、女神坐像

令和5年度 顧問会議開催

今年度の顧問会議が、さる四月一二日、町図書館幸若研究室で開催されました。出席者は中嶋宗聖氏（前県文協会長、現代幸若舞創作者）、村上雅紀氏（町織田歴史文化館学芸員）、打波悦子氏の三顧問で当会の児玉会長他三名の会員が参加しました。

三顧問からの主要な発言要旨は次の通りです。

① 来年令和七年に、越前町合併二〇周年を迎えて、記念行事が企画される。これらのイベントでの、「幸若舞」のPRを検討すべきである。

② もっと町の行政を幸若舞振興PRに巻き込むべきである。また、学校の郷土教育の一環として、特に旧朝日町管内の小中学校において、幸若舞の歴史を伝え、町民の誇りとするような教育を行うべきである。

③ 明治以後、全国に散らばった幸若・桃井氏一族を組織化し、一族の会議を越前町で開催するなど、幸若舞復興のパワーとしたらどうか。

④ 福岡県みやま市の幸若舞保存会の活動概要をDVDで知ったが、「越前幸若舞」の伝統復活は至難の業である。まずは町民の幸若舞に対する関心・興味を高める必要がある。そのための一つの方法として、もっとマスコミやメディアを利用して、「露出」を図るべきである。

幸若アラカルト



福井足羽地区左内まつり参加 4月6日



佐々生墓地清掃 4月14日



幸若人形お色直し完了



幸若舞PR塔撤去

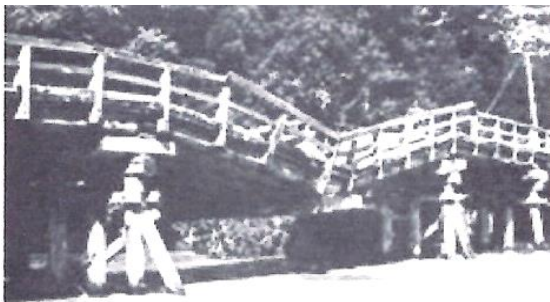
往時の徳万橋と寒中水泳

古老に聞く 内郡編抜粋

恒例の古老に聞くシリーズが去る二月二十七日に朝日コミセンで行われました。当日は、内郡在住の三上伊三男（七九歳）および阪下登代治（八二歳）の両氏から、当会の橋本会員と朝日コミセンの木下さんがお話を伺いました。話題は多岐に及びましたが、今回は徳万橋と天王川寒中水泳に関してご紹介します。小さい頃に徳万橋を架け替えました。昔は木で出来ていて、最大重量一・五トで大型トラックは通れなかった。橋を架け替えている間は、丈夫なワイヤーが宝泉寺と内郡の間に張ってあった。そのワイヤーにロープが付いたわっぱが付いていて、そして舟があった。もう一本普通のロープが張ってあり、ワイヤーで流れるのを止めていた。ロープを使っていたり来たりしていた。それが面白くて頼まれもしないのに、お客さんが来ると一生懸命引張って、行ったり来たりしたのを覚えている。管理者はいなかった。誰もいなければ自分でした。（徳万橋の木造からコンクリート橋への架け替え工事は昭和三二〜三三年の時期である。）

昔は子供は川に浸かって遊んでいた。西田中の子供は二箇用水の堰堤、PTAが飛び込み台を作っていた。あとになるとPTAがパラソルをさして監視していた。内郡の子供は五箇、栃川・天王・宝泉寺の子供は七郷、朝日の子供はお化け岩の所で遊んでいた。丹生高校の水泳部の寒中水泳は今の青柳の所でした。一月の終りごろ、堤防に雪がある所にひな壇の様に座って見ていた。そこに丹生高校の生徒が裸になって、堤防のそばの（丹生署）留置所から出てきて雪の上を歩いて皆で入った。川の真ん中に「丹生高校」と看板をあげた。丹生高校の水泳部は強かった。越廼や越前からくる生徒もいたからか、かなりいい成績だった。警察も協力していたのだろうか、警察で脱いで警察のお風呂に入って着替えて帰ったのだろう。（丹生高校の移転は昭和三五年、丹生署の移転は昭和五六年）

そのほかにも、興味深い聞き取り記録全編が朝日コミセンに保管されておりますのでお問い合わせください。



建設省資料
昭和28年台風13号により崩壊した徳万橋



昭和28年丹生高校生による寒中水泳
木下竜雄氏提供写真